

専修大学LLだより

目次

特集 留学

外国語と私 (商学部教授 王 伸子)	2
留学体験談	
私の交換留学 ~ネブラスカ~ (アメリカ:ネブラスカ大学)	3
留学を振り返って (ドイツ:ハレ大学)	4
なぜ西安か? (中国:西北大学)	5
春期プログラム ワイカト大学 (ニュージーランド:ワイカト大学)	6
春期研修に参加して感じたこと (ドイツ:スピーク・アンド・ライト校)	7
LL インフォメーション	8
重要なお知らせ (LL 教室リニューアルに伴う LL 自習室・テプ ライグ リーの閉室について)	



LL 研究室

外国語と私

私の担当科目は、「日本語音声理解」「一般日本事情」「日本語上級理解」、つまり外国人留学生に対する日本語、およびその関連科目です。これは、いわゆる「国語」ではなく、外国語としての日本語という側面から、日本語を母語としない学生に日本語を教えるという教育であり、一つの外国語教育です。しかし、現在では日本語を専門とする私も、ここに至るまでにはさまざまな外国語を通してきました。今回は、「外国語と私」という月並みなタイトルですが、現在の仕事に結びつくことになった私の外国語学習歴をお話しし、外国語学習はおもしろい、ということをお伝えしたいと思います。まず、中学1年で始めた英語、これは人並みなスタートでしょう。続いて中学2年からロシア語を始めますが、それを除けば、英語一色、中学から高校3年までは英語が非常におもしろく、英語にどっぷり漬かった生活を送ります。大学に入学後、その他の外国語にも大いに興味を持ち、第二外国語として履修したスペイン語を皮切りに、ラテン語、中国語と学習は続きます。中国語も10代のうちに標準語と方言（いわゆる台湾語）に取り組み、20代になってからは、広州方言（いわゆる広東語）と、範囲を広げていきました。また、中国標準語は台湾の大学、広東語は香港の大学まで出かけ、都合1年半ほど日本を離れ、今度は中国語の世界に漬かることになりました。そうこうしているうちに、あるとき、日本語の面白さにはっと気づき、「そうだ、日本語だ！」と目覚めることになったのです。それから、外国語としての日本語、つまり日本語教育を目指して大学院に入りました。大学院に進学してからも快進

撃(?)は続き、韓国語、中国語上海方言なども守備範囲におさめました。日本語教育の職についてからも、フランス語、ポルトガル語・・・と、外国語学習はとどまるところ知らずではありますが、最近の小休止状態です。私の場合、無節操に続けてきたかのごとき外国語学習でしたが、大学院で研究する段階になって、それまでの蓄積が非常に役に立ちました。日本語研究の際、対照研究を行う上で外国語の言語上の知識も大きな力となりましたが、それだけでなく、自分が学習者としてどのように工夫してきたか、どの点がわかりやすく、どの点がむずかしかったのかということも、今、日本語を教えるときの工夫の原点となっているのです。また、私の外国語学習の方法ですが、ロシア語と英語はNHKのラジオ講座、テレビ講座を活用しました。英語は高校で選択科目として5科目も設置されており、ネイティブ教師も多かったので、学校で十分勉強できました。中国語は、大学1年のころから台湾に滞在する機会がたびたびあったので、ほとんど現地で習得しました。ラテン語は大学学部の授業で、スペイン語は学部と大学院の授業で勉強しましたが、今は単に学習歴の一端に加えられている程度です・・・。何はともあれ、外国語を勉強することも、自分の母語をあらためて観察することも、同じようにわくわくするような楽しみがあります。大学の授業でも、自分の参加する姿勢次第、意欲次第で、いろいろなことを吸収できるのではないのでしょうか。皆さんにも、そうした楽しみを、是非、知ってほしいと思います。

王 伸子(商学部 教授)

私の交換留学 ～ネブラスカ～



私とネブラスカとの出会いは、今考えると運命的何かがあったように思える。

1997年夏、それまでの墮落していた大学生活の何かを変え

ようと飛び立ったのが始まりだった。思えば英語も挨拶ぐらいがやっと、英語を話すと思える人々とのコミュニケーションはなるべく避けていた私にとっては全てが新鮮だったし、リンカーンという小さな町にさえ、たくさんのカルチャーショックや言語、人種が集まり、私を刺激してくれたことに感動。そしてその後、就職活動や留年しなくてはならないことへの葛藤を振り切って、この交換留学を決意したのだ。そして去年の5月、長い葛藤を経て、私はネブラスカへと再び旅立つ事になった。初めは語学研修、そして夏休みを迎え、いよいよ正規授業へ。それは私が想像していたよりもさらに厳しく、自分の甘えや無能力さをいやでも実感してしまうものだった。クラスでは日本人はおろか、アジア人が独りなんていうクラスはしょっちゅうだった。初めはクラスの後ろに一人で座って、なるべく指されないように、目立たないように座っていたが、そのうち授業を中断しても自分の質問事項や分からないところをクリアにしようとするアメリカ人のクラスメートに感化され、初めてクラスで発言した事は今でも忘れない。真っ赤になって心臓はバクバクし、声はうわずっていたが、教授は耳をダンボにして私の拙い英語を聞き取ってくれた。その他にもネブラスカは私に様々な初体験をさせてくれた。例えば、ネブラスカは寒暖の厳しい土地である。初めてマイナス40度、何年振りかの休講を経験。寒いというよりも痛い。家を出ただけで顔が凍傷になってしまう。その他には、

しょっちゅうパーティーに呼ばれた。ポットロックパーティーや、サプライズパーティーなどそれぞれのオケージョンに合わせたパーティーが毎週のように開かれ、ダンスをしたり、バーベキューをしたり、メリハリのある生活を送ることが出来た。渡米する前に人会う人「ネブラスカって田舎なんでしょ？」と言われ、不安になったが、暇な時はピクニックに行ったり、パーティーをしたり、行きつけのコーヒーハウスに友達を作りに行ったり、何か自分で楽しみを見付けようとしていた。そんな毎日が私にとっては冒険だったのだ。この頃には、行く前に抱いていた不安や葛藤なんてものはかけらもないほど、毎日が充実していた。気が付けば、最初の恐怖は私の変なプライドが作り出していたものだったのだ。「あんな質問して馬鹿だと思われたら」とか「絶対に留学生だからといって特別扱いされたくない」などである。しかし、アメリカで、帰国子女でもない私が、アメリカ人と互角に戦うのは到底無理な話なのだ。私は授業やペーパーワークを通してプライドを捨て、自分には言葉の壁があるということを相手に分かってもらうこと、しかしそれに甘えずにできる限りのベストを尽くすことの大切さ、素直に自分自身を認めることの大切さを学んだ。このように私の留学は最初からスムーズにいったわけではないが、言葉と文化が違う国での自分なりの勉強方法や、楽しみ方を見付けて行った。心からこの交換留学プログラムに参加し、私に色々なことを気づかせてくれたクラスメートや先生方に、そして私の留学を精神的に支えてくれた全国から来ている日本人の友達にも感謝したいと思う。

最後に、これから留学を考えている人へ。もし迷っているなら「やらない」より「やる」方を選んで下さい。その決断をして良かったと必ず思える日が来ます。頑張ってください。

経済学部 4年 加藤 彩

ドイツ:ハレ大学

留学を振り返って



私は去年1年間、専修大学の交換留学制度を利用して、ドイツのハレ・ヴィッテンベルク大学で勉強して

きました。ドイツで勉強してみたいと思った理由は2つあります。1つは、大学に入ってから始めたドイツ語が楽しく、おもしろく、もっと本格的に勉強してみたいと思ったことです。2つ目の理由は、専門である政治学、特に「政治学史」をドイツで勉強してみたくなったことです。不安と期待が入り混じった状態で始まった私の留学生活は、たくさんの成果と経験を私にもたらししてくれました。

2月にドイツへ渡ったときは挨拶程度のドイツ語しかできなく、不安でいっぱいでしたが、それはホストファミリーの暖かさ、熱心さ、優しさでそんな不安はあっ飛びました。いつどんな時も私のめちゃくちゃなドイツ語を最後まで聞いて理解しようとしてくれました。そんな家族の暖かさが私を励ましてくれ、この人達ともっといろいろ話してみたいと思うようにさせてくれ、もっとドイツ語を話せるようになりたいと思わせてくれました。日本に帰国した今でも、お手紙を頂いたりして、交流させて頂いています。

また、緊張感あるドイツ人の学生と一緒に受ける授業や、他の国からの留学生との授業は私にとって貴重な体験となりました。特に、留学生と一緒に授業は世界にある色々な考えの存在を知ることができ、日本のことを改めて考える機会を与えてくれました。例えば、「社会における女性の立場」や「ゴミ問題」などを留学生同士でディスカッションすることができたことは重要な経験となりました。今年はこれらの経験を

生かして勉強したいと思います。

私が紹介したいドイツで気に入ったものの1つを挙げると、それは「気軽に文化に触れあえる」という点です。オペラ、バレエ、映画、音楽などの日本では高価なイメージがある文化鑑賞も低料金で、気楽に触れ合うことができます。このように芸術、文化に触れ合うことができたことはまた新しい興味を湧かせてくれ、これからの私の人生に影響を与えてくれたと思います。

私はこのように良い環境、頼れるホストファミリー、楽しい友人に囲まれて充実した生活を送ることができました。

このような機会を与えてくれた専修大学と両親に感謝しています。

法学部4年 古泉 幸永子

本学国際交流課主催の留学プログラムを紹介いたしますので参考にして下さい。
尚、下記プログラムの詳細については、国際交流課(9号館5階)にお問い合わせ下さい。

平成13年度春期プログラム募集内容

申込締切 13年10月10日(水)

選考日 13年10月13日(土)【筆記試験(聴解)試験含]
13年10月20日(土)【面接】

中国:中国語

研修校 北京大学

研修日程 H14.2.9(土)~3.14(木) <34日間>

ドイツ:ドイツ語

研修校 スピーク アンド ライト

研修日程 H14.2.3(日)~3.3(日) <29日間>

フランス:フランス語

研修校 C.I.E.L.-Brest

研修日程 H14.2.9(土)~3.10(日) <30日間>

メキシコ:スペイン語

研修校 イベロアメリカーナ大学

研修日程 H14.2.2(土)~3.7(木) <34日間>

インドネシア:インドネシア語

研修校 パジャジャラン大学

研修日程 H14.2.16(土)~3.17(日) <30日間>

中国: 西北大学

なぜ西安か？

かつて長安という名で、漢や唐といった王朝が都を置いていた時代、それが現在の西安の最盛期でした。そして現在の西安は、観光収入が域内生産総額の10%を占める、良く言えば観光都市、悪く言えば経済的に遅れた街です。そして言語的にも北方系の中でもそれなりに独自の発音と語意を有する、言うなれば立派な方言地域です。

このように、私が昨年度一年間留学した西安という街は、現実それほど人気のある留学先ではありません。

上に述べた理由から西安は歴史的遺産が豊富な街であり、歴史や文学に興味のある人でしたら、それだけで十分に1年間を楽しめるでしょう。また、シルクロード観光の起点でもあり、明代の城郭に囲まれた街並みなど、観光旅行を楽しむ人にとっても魅力的な留学先かも知れません。しかしそれらの楽しみの為だけに1年間をかけて留学に臨むというのは、動機として少し弱いでしょう。

私自身は歴史を専門にしているのでこれだけの動機で充分留学先として選択できたのですが、私はむしろ歴史や文学に興味の無い人にこそ、西安を留学先として薦めたいと考えています。

それは西安が現在の中国の都市の中でも有数の「田舎街」だからです。北京や上海に比べ10年以上といわれる程遅れた社会基盤と、数える気にすらなれない待業者(ようするに失業者)の群れが、省都クラスの中でも有数の貧しさを象徴しています。そして今、この状態から少しでも抜け出すために様々な変革が進められています。経済発展がある程度落ち着きつつある中国にあって、いまだにこれだけダイナミックに変化し続けている街は、そうはありません。そしてその変化の息吹を自分自身の肌で感じて下さい。

そこには手取り日当2元(約30円)で

働く出稼ぎ労働者や、かつての日本のバブルを彷彿とさせるような成金が、また毎月のように完成する高層ビルと、破壊される古くからの街並みが、隅から隅まで自転車で30分とかからないような狭い地区に混在しています。そしてこの街で辛くて量が多いということだけが特色の西安料理を食べ、水より安い地ビールと50度を越す白酒を飲みながら(未成年者を除く)中学すら出ていない工人、小姐から大学の教員などのインテリまで、様々な社会階層を剥き出しにした中国人と会話することは、実に愉快(時として不愉快)で貴重な経験です。

また近年崩れつつある大学の全寮制も西北大学ではかたくなに守り続けられています。このため欧米や韓国、果てはカザフスタンからの留学生まで、国際色豊かな友人たちとの共同生活を存分に楽しむことができます。

西安はその狭さ、貧しさのゆえに、ホンの一年間の留学でさえ、現在の中国を隅から隅まで覗くことのできる、実に貴重な街です。そしてその楽しさを十分に味わうためにも、語学力の基礎を十分に、しっかりと身につけた上で留学に臨んでください。

大学院博士課程 山田 智



春期プログラム ワイカト大学



ワイカト大学のあるハミルトンはニュージーランド4番目の人口の町ですが、広大な自然に囲まれ、この時期ニュージーランドは夏だったので、寒かった日本を離れ、一足先に夏を満喫してきました。勉強以外にもいろいろな体験をしてきましたが、アクティビティで行った乗馬は忘れられません。誰かに引っぱって連れて行ってもらったのではなく、各自で一列になって丘を登って行ったのですが、その丘の上からみた丘にうつる雲の影は初めての乗馬体験でビクビク恐れていたのも忘れさせ、本当に感動したのをおぼえています。そして、ワイカト大学での授業はというと、午前中の授業は私達、専修大学生の先生として一人の先生が担当してくれました。その先生は週末に、近くの見所へ連れて行ってくれるなど、とてもフレンドリーで、また、クラスでもとても親身に教えてくれました。授業の内容はホームステイの家庭に入って役立つ表現や、ニュージーランドの文化、歴史などロールプレイを通じ、楽しく勉強することができました。これまで、ニュージーランドの歴史などについてよく知らなかったのですが、ニュージーランドの歴史、文化やマオリ民族についてはとても興味深いものがあり、1日フィールドトリップで行ったロトルアという温泉の町で見たマオリの伝統的な踊りと歌、これはマオリ小学校訪問でも見ることができたのですが、素晴らしいかったです。そして午後のオプションクラスでは様々な国から語学研修や、大学入学の勉強のためにきている大学併設の語学学校のクラスへそれぞれわかれ授業を受けたのですが、とても刺激的なクラスで、私の

入ったクラスでは、例えば人種差別問題に対してであったり、新聞の1つの記事についてであったり、ディスカッションを中心とするクラスでした。そこで自分の英語力のなさに悲しくはなりましたが、それ以上に本当にいい刺激になりました。その語学学校で自由に授業以外の時間にパソコンを使う事ができますが、5時までは英語のみで、日本語で書いていたら係りの人に注意されてしまいました。また、学校のスポーツ大会に参加しプレイしたバドミントンやバレーは楽しかったです。約45日間、様々な体験をし、本当に貴重な経験をしました。海外へ行くのも大学に入ってから初めての私にとって、すべてが、「オー、すごーい」と感じてしまったのかもかもしれませんが、それを差し引いても、素晴らしい体験ができたと思います。勉強も勉強以外からもたくさんのお話を学びました。

経済学部 3年 小室 綾子

平成14年度外国留学(学部生)第1・2期募集内容

詳細については国際交流課にお問い合わせ下さい。

申込締切 13年10月10日(水)

選考日 13年10月13日(土)【筆記試験,面接】
13年10月20日(土)【面接】

韓国：韓国語 (檀国大学)

派遣期間 H14.2月～H14.12月

中国：中国語

(上海大学)

派遣期間 H14.2月～H15.1月

(西北大学)

派遣期間 H14.2月～H15.1月

モンゴル：モンゴル語 (モンゴル国立大学)

派遣期間 H14.2月～H15.1月

ドイツ：ドイツ語

(マルティン・ルター大学 ル・ヴァイテンブルク)

派遣期間 H14.2月下旬～H15.2月中旬

フランス：フランス語

(リュミエール・リヨン第2大学)

派遣期間 H14.2月中旬～H15.1月下旬

オーストラリア：英語 (シドニー工科大学)

派遣期間 H14.2月～H14.12月

ニュージーランド：英語 (ワイカト大学)

派遣期間 H14.2月～H14.11月

春期研修に参加して感じたこと

～ドイツ スピーク・アンド・ライト校～



私が研修に参加したのは、学んだドイツ語を実際に使って、日常生活を送ってみたいと思ったからです。勿論、どこまで言葉が通じるか、研修校での授業についていけるかなどの不安はあり、実際最初の一週間は本当に大変でした。でも、担当して下さった先生が大変洞察力のある方で、悲惨な状態の私のドイツ語もちゃんと最後まで聞いて、その上でこちらの意図するところを汲んだ形で、正しい独文に言い直して下さるので、大変ありがたかったです。感動したのは、外国人にドイツ語を用いて独構文を理解させる際に、先生方が決して教えることを諦めないという点です。各国から来た生徒達はみな発音に癖があり、その中で各人の意図を的確に汲み上げてくださること、さらに先生から見て、恐らく半分以上理解できていないだろう私にも、私が解ったと言うまで、易しい色々な言い回しを用いて丁寧に辛抱強く教えて下さる姿勢には、大変感銘を受けました。クラスメイト達は、自分の研究や仕事にドイツ語を活かすという目的を持って学んでいて、そしてとても親切でした。彼らとは拙いドイツ語と英語で休憩中に会話を楽しんだりしました。中でもブルガリアのご夫婦は昼食に招待して下さい、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

日が経つにつれてだんだんドイツ語が解るようになってくると、もっと自分の思っている事を話したくなり、勉強意欲も日本に居る時より高まりました。相手の言っている事が解っても語彙不足で適当な返事が出来なかったり、上手く気持ちを表現出来ない時は本当にもどかしく、もっと喋ればと切実に思いました。でも最終テストの後で、先生が、一ヶ月という短い期間で立派な仕事をした、と私達を誉めて下さった時はとても嬉しかったです。スピーク・アンド・ライトという大変良い環境で、先生やクラスメイトに恵まれて、充実した一ヶ月を過ごせたことをとても感謝しています。

学校があるマールブルクは、静かで落ち着いた街並みと、人々の親切さ、マナーの良さで、生活していて心地良く、日本に帰りたくないと友人たちと話したものです。日曜日には街の人々と同じように午後から散歩に出掛け、ウィンドーショッピングをしながらゆっくり歩くと2時間位すぐに帰ってしまいます。散歩中に、私はなぜかよく道を尋ねられて、ここの住人に見えたのかな、と嬉しい思いもありました。生活の中でドイツ語を使うので、自然と身についた言い回しなども多かったように思います。

この研修で私は、ただ旅行しただけでは決して味わえない経験を沢山得られたと思います。日本に居ても語学の勉強はできませんが、現地を訪れることで、その国の人の考え方(の傾向)や文化など、体感して「ああそうか」と思うものが沢山ありました。これはとても瑞々しい体験でした。一ヶ月は本当に短く、あっという間に過ぎてしまいましたが、私は一生残るくらい素晴らしい思い出と、自分を成長させる時間を持たたと思っています。

商学部 3年 大熊 亜希子

LLインフォメーション

重要なお知らせ

夏期休暇中に神田・生田 LL 教室のリニューアルを行います。従って下記期間は **LL 自習室・テブライヴリーは閉室**となります。

また、その期間生田校舎 LL 事務室は教務課 (4号館 1階)に移動します。

夏期休暇中は何かと不便をおかけしますが、後期からは、更に使いやすい LL 教室、自習室 (神田 = LL 教室に Windows パソコン設置、自習室のリニューアル 生田 = LL 教室 A、D には Windows パソコンが設置され、現在の E 教室は専用の自習室となります) が誕生しますので請うご期待!!

閉室期間：7月21日(土)～9月14日(金)

語学相談を利用しよう!

LL 研究室では専任教員による語学相談を行っています。相談できる言語は、現在のところ、英語、フランス語、スペイン語、日本語、中国語、ドイツ語です。資格試験取得や留学など、目標は立てたものの勉強方法に悩んでいる人、或いは、勉強方法は見つかったものの伸び悩んでいる人など、まずは LL 事務室スタッフに声を掛けてみてください。

新規購読雑誌の紹介

4月より次の4誌を新規に配架しています。外国語学習の補完に、あるいは勉強の合間の息抜きとしても利用して下さい。

ふらんす

日本語ジャーナル (CD 付)

中国語ジャーナル (CD 付)

TOEIC Friends (CD 付)

新着教材の紹介

VIVA! SAN FRANCISCO(英語)

ビデオとテキストが一体となった会話教材。サンフランシスコを散策したり、キャンプスライでの会話など、楽しみながら学べる教材です。(生田のみ配架)

Trois minutes, s'il vous plait! (フランス語)

フランス人の様々な日常生活の場面をそれぞれ3分間のユーモラスなスッチ(10話)にまとめたビデオ教材です。聴解力が飛躍的にアップ!(生田のみ配架)

* 留学関連の書籍も数冊購入予定です



編集後記

今回は留学特集です。長期留学や短期の語学研修等、世界の各地での体験を先生や学生に自由に語ってもらいました。参考にして是非皆さんもチャレンジしてみてください。(ほ)

皆さんからの声をお待ちしています

専修大学 LL だより 第12号

発行日 2001年7月2日

(平成13年)

編集発行 専修大学 LL 研究室

室長 大森 洋子

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

URL: <http://www.gkk.senshu-u.ac.jp>